

3 こそこあど言葉

プリンター

国語のワーク3・4年生

1 空らんに言葉を書きこんで「こそあど言葉」の表をかんせいさせましょう。

様子		方向		場所	物事			
こう	こんな	<span style="color: red;">こ</span> つち	こちら	ここ	この	<span style="color: red;">これ</span>	話し手に近い	こ
そう	<span style="color: red;">そ</span> んな	そつち	<span style="color: red;">そ</span> ちら	そこ	<span style="color: red;">その</span>	それ	相手に近い	そ
ああ	あんな	<span style="color: red;">あ</span> つち	あちら	<span style="color: red;">それ</span>	あの	<span style="color: red;">あれ</span>	どちらからも遠い	あ
<span style="color: red;">ど</span> う	どんな	どつち	<span style="color: red;">ど</span> ちら	どこ	<span style="color: red;">どの</span>	どれ	分からない	ど

### 3 このそあど言葉

#### プリント2

国語のワーク3・4年生

2 — をひいた「このそあど言葉」が、文中のどの部分をさしているのか、書きぬいて答えましょう。「」の後に言葉があるときは、その言葉につづくように書きぬきましょう。

① 家に帰かえったらまず宿題しゅくだいをやること。これがぼくとお母さんとのやくそくだ。

「宿題をやる」こと

② 魚屋さかなやのおじさんが、さばうを受けとってまな板いたにのせたかと思うと、あっという間にそれを三枚まいにおろしてしまった。

「さば」

③ めざましが鳴なった。そのとき、ぼくはずでに起きて歯はをみがいていた。

「めざましが鳴った」とき

④ 「オレンジ色の屋根の家があるでしょ。あそこが私の家よ。」

「オレンジ色の屋根の家」

⑤ お兄ちゃんが、学校を休んだ。こんなことはめったにないので少しおどろいた。

「お兄ちゃん」が「学校を休んだ」こと

⑥ 辰造は、大きなふろしきを抱えていた。その中には、数えきれないほどのなすびが入っていた。

「大きなふろしき」

⑦ トチの木の後ろに、ちょうど月が出てきて、えだの間に星が光ってるんだ。そこに雪がふってるから、明かりがついたように見えるんだべ。

「えだの間（トチの木のえだの間）」

3 このそあど言葉

プリント3

国語のワーク3・4年生

2 つぎの文の「」にあてはまる「このそあど言葉」を、あとの□からえらんでかきましよう。

① 自転車じてんしゃで公園こうえんに行き、「**そこ**」でおにぎりを食べた。

② 夏はシャツ一枚まいでも平気へいせいだが、冬は「**そう**」はいかない。

③ カナダにいるおじさんに会ったのが三年前だ。「**その**」ときのおじさんはまだおぼえているだろうか。

④ 日本一高くうつくて美しい山。「**それ**」が富士山ふじさんだ。

そう      そこ      それ      あの

④ おくれて会場かいじょうに入った私は、娘むすめとはぐれてしまった。人ごみの中、しばらく私は立ち止まってとほうにくれていた。「**そんな**」私の耳に、「お父さん。「**こっち**」だよ。」

と呼ぶ声よが聞こえた。はじめは、「**どちら**」から声がするのよか分からなかった。しかし、ふり向くと、

「**そこ**」に娘むすめが立っていた。

そこ      こっち      そんな      どちら

⑤ 「**その**」腕時計うでどけい、なかなかいいね。」

「ああ、「**この**」腕時計うでどけいですか。ありがとうございます。  
かたみ  
「**これ**」は父の形見なんです。」

これ      その      この